





病害虫発生予察情報予報第9号

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要

作物名	病害虫名	12月の予想発生量 ^{注1)}		病害虫防除 のてびきの 記載頁 ^{注2)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
野 イチゴ (本圃)	うどんこ病	並	並	194~196	 イチゴ うどんこ病
	ハダニ類	多	並	204~205	
	アブラムシ類	並	並	210~211	
	特記事項 1. ハダニ類 多くの圃場で発生しており一部に多発生圃場も認められる。今後の被害を抑えるため、天敵放飼の有無に関わらず随時発生状況を確認し、ハダニ類の発生が増加する前に薬剤防除を行う。 2. アザミウマ類 多くの圃場で花での発生が認められる(発生圃場率:75.0%、発生花率:11.0%)。発生初期に薬剤防除を行う。 3. 薬剤散布におけるミツバチへの危害防止 薬剤散布においてはミツバチの <u>巣箱を圃場外に持ち出すとともに</u> 、ミツバチが活動する <u>早朝の散布は控える</u> 。				
菜 ナス	すすかび病	並	やや多	231~232	 ナス すすかび病
	灰色かび病	並	やや多	230~231	
	菌核病	やや多	やや多	233	
	アザミウマ類	並	並	242	
	コナジラミ類	やや少	並	240~241	
	ハモグリバエ類	やや少	並	243	
	特記事項 1. すすかび病 初発生時からダコニール1000とベルコートフロアブルを1週間間隔で交互に、約1ヶ月間散布する。				
キュウリ	べと病	やや多	やや多	173~174	 キュウリべと病
	うどんこ類	並	並	179~181	
	褐斑病	並	並	177	
	アザミウマ類	並	並	188~189	
	コナジラミ類	並	並	187~188	
特記事項 1. 抑制栽培作での残さ処分 発病葉や害虫寄生葉は隣接圃場および次作での伝染源、発生源となる。これらを含む残さは圃場外で処分するとともに、発生初期から防除を徹底する。					

野	トマト	葉かび病	多	多	221～222	 トマト葉かび病
		灰色かび病	やや多	並	216～217	
		コナジラミ類	やや多	並	149～151 224～226	
		ハモグリバエ類	やや少	並	158～159 228	
		特記事項 1. 葉かび病 本病がすでに発生した圃場がみられる。本病の発生を認めたら、初期防除を徹底する。 2. ウイルス媒介虫（コナジラミ類・アザミウマ類） これらは、黄化葉巻病等のウイルス病を媒介するため、発生初期の防除を徹底するとともに、発病株は早急に抜き取り、適切に処分する。				
菜	タマネギ	ボトリチス葉枯症	やや多	やや多	279	
		ネギアザミウマ	やや多	やや多	288～289	
		特記事項 1. ベと病 近年、タマネギベと病の多発が続いている。本圃での発生を抑えるために、苗床と本圃移植後の防除を徹底する。				
		特記事項 1. 来作に向けた褐斑病、斑点病、茎枯病、ハダニ類の対策 これらの病害虫は発病茎葉、刈株等で残存する。茎葉刈取後、灌水チューブに付着したハダニ類をほうき等で除去するとともに、残さおよび刈株を除去した後、バーナー焼却を徹底する。				
花	キク (年末出荷タイプ)	白さび病	やや多	やや少	375～376	 キク白さび病
		アザミウマ類	並	並	382～383	
		アブラムシ類	並	並	379～380	
		ハダニ類	並	やや多	380～381	
		ハモグリバエ類	やや少	並	384～385	
		チョウ目害虫	並	並	383～384	
		特記事項 1. 白さび病 発病後の防除は難しいため、 <u>薬剤の定期的な散布による予防防除</u> を行う。 2. クロゲハナアザミウマ 一部の地域で発生が認められる。葉裏に寄生していることが多いので、 <u>葉裏にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布</u> する。 3. ミカンキイロアザミウマ キクえそ病・茎えそ病の媒介を防ぐため、本虫について発生初期からの防除を徹底するとともに、発病株は早急に抜き取る。				

注1) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病害虫について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。
 注2) 防除対策については「[佐賀県病害虫防除のてびき](#)」も参照してください。

Ⅱ. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去10年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
- 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、（－）：少発生、（－～±）：やや少発生、（±）：並発生、（±～＋）：やや多発生、（＋）：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
3ページ目以降：巡回調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

Ⅲ. 12月の気象条件

病害虫の発生に関与する12月の気象条件については、福岡管区气象台発表の3ヶ月予報（平成27年11月25日）を基に、「気温：平年よりやや高い」、「降水量：平年よりやや多い」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3ヶ月予報における12月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	40 (7.6℃)	40	やや高い
降水量	20	40 (47.7mm)	40	やや多い

IV. 12月の予報

イチゴ(本圃)

巡回調査(12圃場)
11月18~24日



巡回調査圃場の様子

1. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年並(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査(図1参照)

発生株率：6.7%(平年17.8%、前年30.0%)

平年比：やや少(一~±)

前年比：少(一)

②病害虫防除員による調査(6圃場)

5圃場で発生確認、発生株率は11.0%(一~±)

(2) 12月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件(±~+)

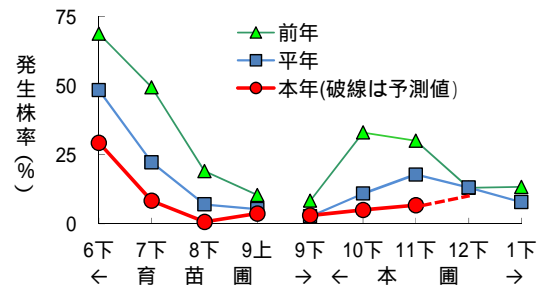


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 圃場での発生程度に合わせ、約10~14日間隔の薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせる。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。

2. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い(前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査(図1参照)

発生株率：12.0%(平年8.5%、前年12.7%)

(発生株率76%の多発生圃場を1圃場確認)

平年比：並(±)

前年比：並(±)

②病害虫防除員による調査(6圃場)

4圃場で発生確認、発生株率は13.5%(±~+)

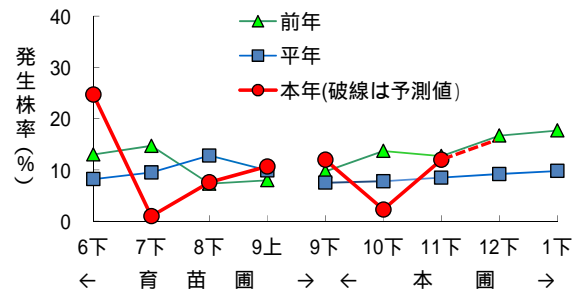


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) ハダニ類の薬剤に対する感受性は圃場間で異なるため、効果低下を認めた薬剤の使用は控え他系統の薬剤を利用する。

(2) その他については特記事項を参照。

ナス（促成）

巡回調査（8圃場）
11月19～24日



巡回調査圃場の様子

1. すずかび病

- 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや多い）
- 予報の根拠
 - 発生の現況
 - 巡回調査（図1参照）
発生株率：0%（平年0.3%、前年0%）
平年比：やや少（-～±）
前年比：並（±）
 - 病害虫防除員による調査（6圃場）
1圃場で発生確認、発生株率は1.7%（+）
 - 12月の気象予報
降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）
- 防除上注意すべき事項
 - 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
 - その他については特記事項参照。

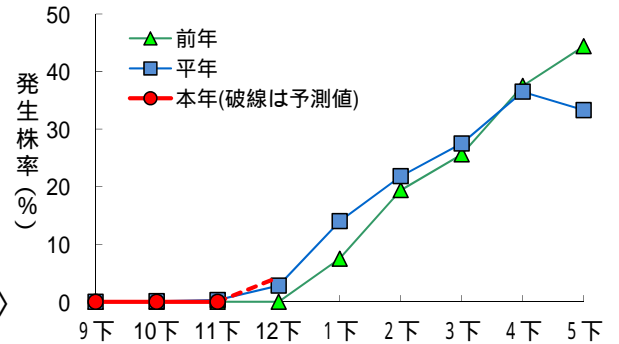


図1 ナスすずかび病の発生推移

2. 菌核病

- 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）
- 予報の根拠
 - 発生の現況
 - 巡回調査（図1参照）
発生株率：0%（平年0.1%、前年0%）
平年比：並（±）
前年比：並（±）
 - 病害虫防除員による調査（6圃場）
3圃場で発生確認、発生株率は2.5%（+）
 - 12月の気象予報
降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）
- 防除上注意すべき事項
 - 発病果や発病茎葉は早めに除去し、発生初期からの防除を徹底する。

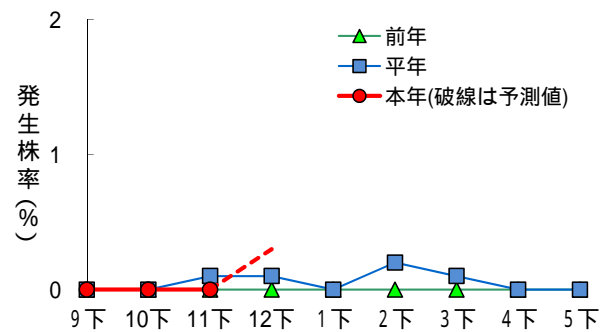


図1 ナス菌核病の発生推移

3. アザミウマ類

- 予報の内容
発生量：平年並（前年並）
- 予報の根拠
 - 発生の現況
 - 巡回調査（図1参照）

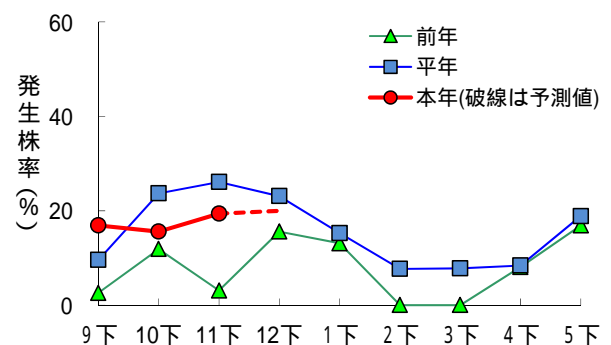


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

発生株率：19.4%（平年26.1%、前年3.1%）

平年比：並（±）

前年比：やや多（±～+）

②病害虫防除員による調査（6圃場）

4圃場で発生確認、発生株率は5.8%（-～±）

3）防除上注意すべき事項

(1)葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。

(2)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。

4. コナジラミ類

1）予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2）予報の根拠

(1)発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：31.9%（平年42.6%、前年26.9%）

平年比：やや少（-～±）

前年比：並（±）

②病害虫防除員による調査（6圃場）

発生株率：0%（-）

3）防除上注意すべき事項

(1)葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。

(2)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。

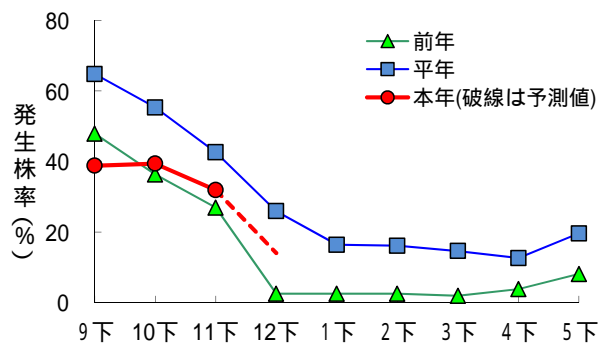


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

5. ハモグリバエ類

1）予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2）予報の根拠

(1)発生の現況

①巡回調査（図1参照）

食害株率：3.8%（平年37.8%、前年17.5%）

平年比：少（-）

前年比：やや少（-～±）

②病害虫防除員による調査（6圃場）

2圃場で食害確認、食害株率は3.3%（-）

3）防除上注意すべき事項

(1)下位葉にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。

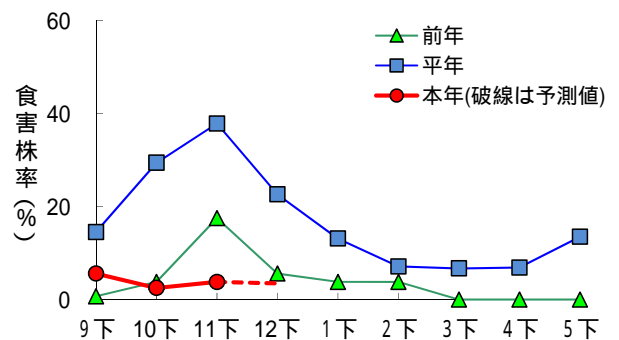


図1 ハモグリバエ類のナスでの食害株率の推移

キュウリ（抑制）

（巡回調査：11月18日～24日）



巡回調査圃場の様子

1. ベと病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：31.9%（平年21.3%、前年31.9%）

平年比：やや多（±～+）

前年比：並（±）

(2) 12月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）

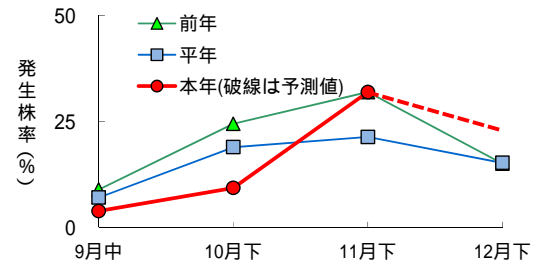


図1 キュウリベと病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 抑制裁培で発生した圃場では、半促成栽培の早期から再発生する可能性があるため、残さを圃場外で処分するとともに発生初期の防除を徹底する。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤の使用回数が増えないよう計画的な防除を行う。

2. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：2.5%（平年7.1%、前年0%）

平年比：やや少（-～±）

前年比：並（±）

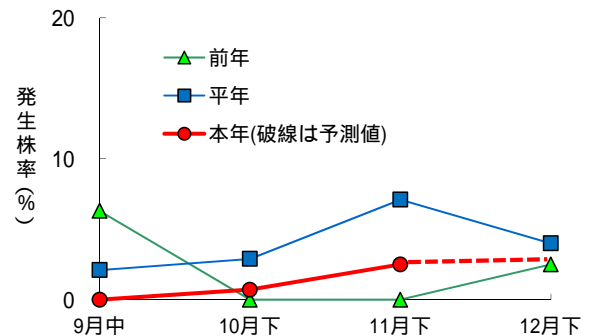


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 次作での黄化えそ病の発生を抑えるため、発病株は直ちに除去、処分し、本虫の防除を徹底する。

3. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：7.5%（平年12.7%、前年8.8%）

平年比：並（±）

前年比：並（±）

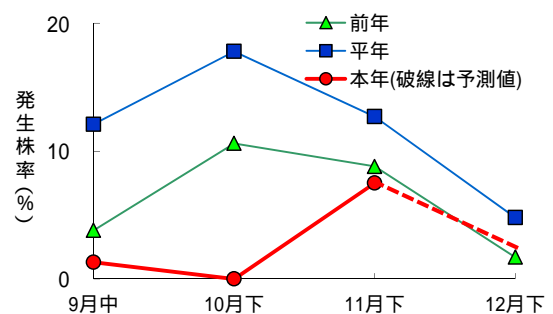


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 次作での退緑黄化病の発生を抑えるため、発病株は直ちに除去、処分し、本虫の防除を徹底する。

トマト

巡回調査（8圃場）
11月18～24日



巡回調査圃場の様子

1. 葉かび病

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率：4.4%（平年0.5%、前年0%）
（発生株率30%の圃場が1圃場認められる）
平年比：多（+）
前年比：多（+）
 - ②病害虫防除員調査（6圃場）
発生株率：0%（±）
 - (2) 12月の気象予報
降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

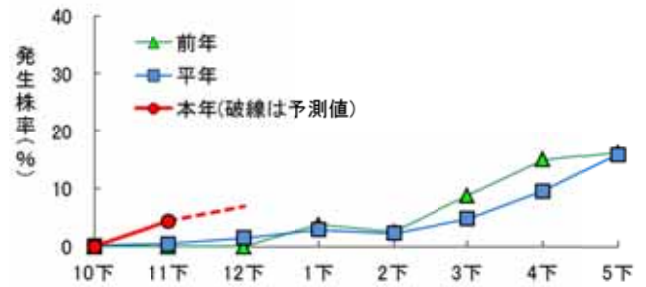


図1 トマト葉かび病の発生推移

2. 灰色かび病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）
発生株率：0%（平年0%、前年0%）
平年比：並（±）
前年比：並（±）
 - ②病害虫防除員調査（6圃場）
発生株率：0%（±）
 - (2) 12月の気象予報
降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 例年12月から初発生する。発病果や発病葉は除去し、発生初期からの防除を徹底する。

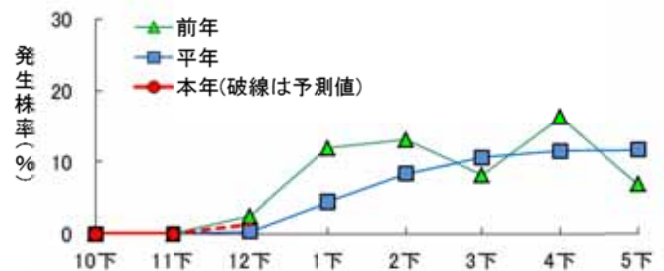


図1 トマト灰色かび病の発生推移

3. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ①巡回調査（図1参照）

発生株率：7.5%（平年5.0%、前年10.0%）
 平年比：やや多（±～+）
 前年比：並（±）

②病虫害防除員調査（6圃場）

2圃場で発生確認、発生株率は5.0%（±）

3）防除上注意すべき事項

(1)特記事項を参照。

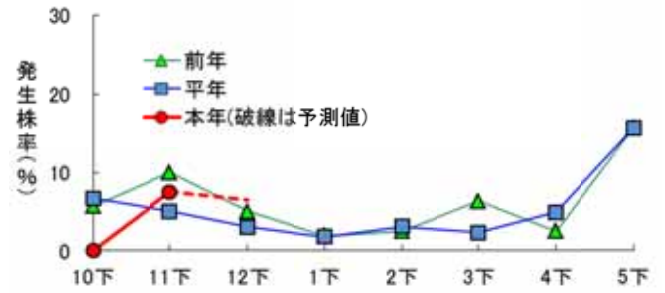


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

4. ハモグリバエ類

1）予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2）予報の根拠

(1)発生の現況（図1参照）

①巡回調査

食害株率：0%（平年10.9%、前年3.1%）

平年比：やや少（-～±）

前年比：並（±）

②病虫害防除員調査（6圃場）

1圃場で発生確認、発生株率は1.7%（±）

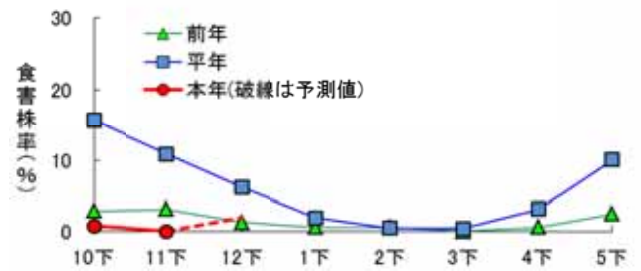


図1 ハモグリバエ類のトマトでの発生推移

3）防除上注意すべき事項

(1)幼虫寄生葉は除去し、施設外へ持ち出して処分する。

タマネギ

巡回調査（16圃場）

11月20日



巡回調査圃場の様子

1. ボトリチス葉枯症

1）予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2）予報の根拠

(1)発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：0.1%（平年0.1%、前年0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2)巡回調査圃場以外で発生を認めている。

（±～+）

(3)12月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生の条件（±～+）

3）防除上注意すべき事項

(1)発生初期の防除を徹底する。

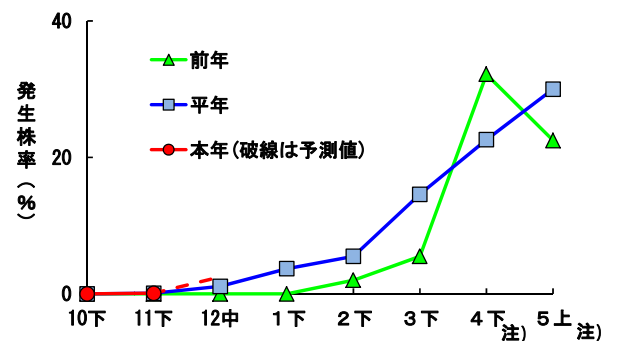


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移
 注)4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

2. ネギアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い
(前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 巡回調査 (図1参照)

発生株率：4.5% (平年3.3%、前年3.9%)

平年比：やや多 (±~+)

前年比：並 (±)

(2) 12月の気象予報

気温がやや高く、やや多発生条件 (±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本虫は薬剤がかかりにくい葉の隙間に寄生しているので、薬剤のかけむらがないように散布する。

(2) 本圃へ本虫を持ち込まないように、苗床での防除を徹底する。

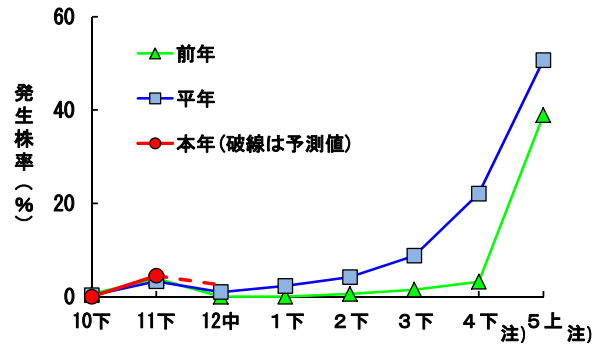


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移
注) 4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

キク

巡回調査 (8圃場)

11月18~24日



巡回調査圃場の様子

1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い
(前年よりやや少ない)

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 巡回調査 (図1参照)

発生株率：2.3% (平年1.6%、前年9.0%)

平年比：並 (±)

前年比：少 (-)

(2) 12月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生条件 (±~)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるように散布する。

(2) 施設内が多湿にならないように換気を図る。

(3) その他については特記事項参照。

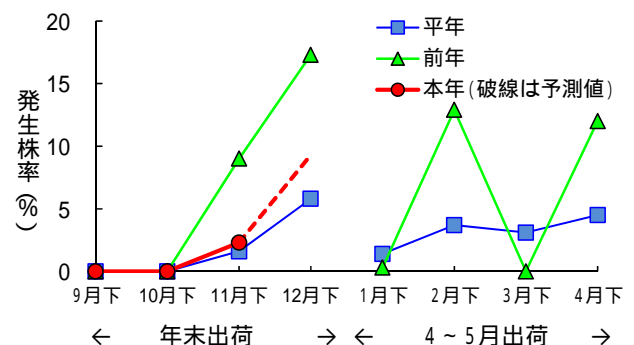


図1 キク白さび病の発生推移

2. アザミウマ類（クロゲハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ）

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：0.8%（平年3.2%、前年2.8%）

平年比：やや少く（～±）

前年比：やや少く（～±）

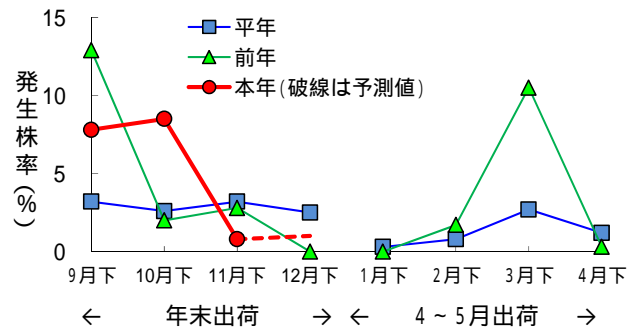


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期からの防除を徹底する。
- (2) 発生を抑えるため、次作開始前に粒剤を施用する。
- (3) その他については特記事項参照。

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①巡回調査（図1参照）

発生株率：9.5%（平年8.1%、前年0%）

平年比：並く（±）

前年比：多く（+）

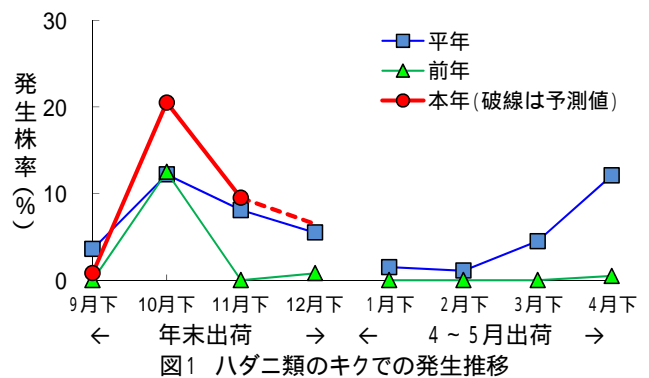


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本種は薬液のかかりにくい葉裏や下位葉に寄生していることが多いので、薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

全国・佐賀県で多発生している病害虫及び新たに発生した病害虫

主に10月24日～11月25日までに発表されたもの

警報・注意報（重要な病害虫の多発生が予想され、早めに防除する必要があるときに発表）

作物名	病害虫名	九州・山口		その他の都道府県	
		注意報	警報	注意報	警報
小ギク	アザミウマ類	10/30	沖縄県		
イチゴ	うどんこ病	11/9	熊本県		

特殊報（新たな病害虫が発生した時などに発表される）

作物名		病害虫名	発表日及び発信元	
野菜	ゴマ・ササゲ等	ミナミアオカメムシ	11/2	神奈川県
	サツマイモ	ヨツモンカメノコハムシ	11/20	愛媛県
	メボウキ(バジル)	メボウキ(バジル)べと病	11/17	神奈川県
果樹	ナシ	キクイムシ類	11/10	宮城県
	ナシ	ニホンナシハモグリダニ(仮称)	11/20	長野県
	ナシ	ヒメボクトウ	11/20	福岡県
	モモ	果実赤点病	11/20	福岡県
	マンゴー	キイロワタフキコナカイガラムシ	11/20	鹿児島県

農薬の適正使用を徹底しましょう！

◎農薬を使用する際は、事前にラベルをよく確認しましょう。

農薬の登録内容は変更されることがあります。

使い慣れた農薬でも、ラベル等で登録内容を確認して使いましょう。